

平成 23 年度 第 1 回 海岸工学委員会 議事録

開催日時：平成 23 年 6 月 17 日（水）14:00～16:30

開催場所：土木学会 AB 会議室

出席者：岩田相談役，喜岡相談役，灘岡前委員長，間瀬新委員長，
後藤幹事長，
青木，荒木，五十嵐，池谷，伊藤，Esteban，大山，岡安，高田（梶原委員の代理），太田（黒岩委員の代理），小野（黒木委員の代理），
上月，小林，佐々木，大塚（猿渡委員の代理），津田，加藤（藤田委員の代理），古川，松本，宇都宮（三嶋委員の代理），水谷，森，
八木，山本，横木の各委員
小笠原，柿沼，北野，栗山，榊山，佐藤，重松，諏訪，高木，武若，丹治，藤間，陸田，森屋，宮武（渡部委員兼幹事の代理）の各委員兼幹事

資料：・平成 23 年度 第 1 回 海岸工学委員会の議事（資料 1）
・PowerPoint スライド（資料 2）
・土木学会論文集 B2（海岸工学）特集号（海岸工学論文集）投稿要項（資料 3）
・第 47 回水工学に関する夏期研修会ポスター（資料 4）
・海岸工学講演会 開催地一覧（参考資料 1）
・水工学に関する夏期研修会開催一覧（参考資料 2）

議事前報告事項

1. 委員自己紹介

2. 他委員会への派遣委員（後藤幹事長）

他委員会へ派遣される委員について以下の通り報告された。

- ・委員会名：旧派遣委員名→新派遣委員名
- ・環境システム委員会：佐々木委員→（継続）
- ・地球環境委員会：伊藤委員→松本委員
- ・水工学委員会：榊山委員兼幹事→（継続）
- ・出版委員会：黒岩委員→（継続）
- ・論文賞選考委員会：佐藤委員兼幹事→今村委員
- ・環境賞選考委員会：木村委員→上月委員

3. B1・B2・B3 分冊合同編集小委員会（後藤幹事長）

平成 23 年度は，森委員及び田島先生が，それぞれ，本小委員会の委員及び幹事長となることが報告された。なお，B1，B2 及び B3 の各部門の委員数は，それぞれ，5，2 及び 1 名である。

4. 基準・指針類の点検（後藤幹事長）

土木学会東北関東大震災特別委員会の依頼を受け，指針変更の必要性に関して幹事会で審議した。その結果，調査が必要であり，現時点で変更の可能性の有無を言うことができないとされ，後藤幹事長が次のように回答した。

「海岸施設設計便覧に関して，今後調査が進んで，災害の全貌が明らかとなった時点で，見直しの可否を検討する。」

5. 東日本大震災特別委員会及び TF, 津波被害調査について (佐藤委員兼幹事)
- これらに対する海岸工学委員会の対応について, 資料 2 に基づき報告された.
- ・東日本大震災特別委員会の下に複数の特定テーマ委員会が設置されている.
 - ・東北地方太平洋沖地震津波合同調査グループの調査体制について説明があり, 調査結果がホームページに集約されつつあることが報告された.
 - ・痕跡調査は終了している.
 - ・報告会を 5 月 10 日, 6 月 13 日に実施した. 7 月 16 日にも予定されている.

審議・報告事項

1. 平成 23, 24 年度海岸工学委員会委員長選挙

委任者ならびに代理出席者を含む出席委員数が, 委員定数の 2/3 の定足数に達していることを確認後, 「土木学会海岸工学委員会委員長選挙細則」に則り, 標記選挙が実施された. 選挙結果は, 以下に示す通りであった.

- ・予備投票選出者 : 間瀬委員, 佐藤委員兼幹事
- ・第 2 回投票選出者 : 間瀬委員

本選挙の結果, 第 2 回投票選出者である間瀬委員が平成 23, 24 年度本委員会委員長として推薦されることに決定した.

2. 幹事長, 小委員会委員長・副委員長の指名 (間瀬委員長)

幹事長, 小委員会委員長が以下のように指名された.

- ・幹事長 : 後藤幹事長 (継続)
- ・CEJ 編集小委員会 : 水谷委員 (委員長), 佐々木委員 (副委員長)
- ・広報小委員会 : 森委員
- ・沿岸域研究連携推進小委員会 : 重松委員兼幹事
- ・津波被害推定ならびに軽減技術研究小委員会 : 今村委員
- ・数値波動研究小委員会 : 岡安委員
- ・温暖化適応策小委員会 : 横木委員

相談役に磯部元委員長と柴山元委員を推挙することが提案され, 了承された.

3. 第 58 回海岸工学講演会 (海岸工学論文集第 58 巻) 応募論文審査について (青木海岸工学論文集編集小委員会小委員長)

- ・締め切りが 2 週間延期された.
- ・第 1 段審査通過論文数は 287 編 (評価点 18 点以上の論文が 245 編, 17 点の論文が 42 編) であった. 採択率は約 78%である.
- ・査読者ごとの平均点は 3.72 点 (昨年も 3.72 点) であった.
- ・最近の全体採択率, 分野別の採択率についての説明がなされた.
- ・本原稿の執筆辞退が 3 件あった. この 3 件について, 編集小委員会小委員長から著者に厳重注意をした.
- ・第 2 段審査論文数 284 編 (287 編-3 編) のうち, A 判定 105 編, B 判定 135 編, C 判定 42 編, D 判定 2 編という結果であった.
- ・D 判定 2 編のうちの 1 編は論文としての完成度が低いものであった. 他の 1 編は本論文提出時の確認不足により, 結果として本論文がアブストラクトの論文と異なっていたものである. アブストラクトの内容を無視して第 2 段階で提出された本論文のみで審査するのは公平性を欠くため D 判定とした.
- ・第 2 段審査後の日程, 提出物, 提出方法についての説明がなされた.
- ・J-Stage 関連の注意点についての説明がなされた. 昨年度からオンライン

雑誌が本編となっている。また、論文集購読者しか J-Stage 上で閲覧できない。

- ・土木学会論文集 B2 (海岸工学) 特集号 (海岸工学論文集) 投稿要領 (資料 3) の見直しに関する説明がなされた。論文の内容がその「速報性」において意味がある場合も新規性に該当するとした。執筆要領に従っていない論文も不採択になることを示した。
- ・国際セッションに関する説明がなされた。投稿数は 11 編であり全数を採択した。

4. 土木学会論文集編集委員会、編集調整会議及び論文集再編小委員会報告 (青木海岸工学論文集編集小委員会小委員長、後藤幹事長)

- ・平成 22 年 6 月以降 19 の分冊編集小委員会で動いている。
- ・B 部門についてのみ 3 部門が統合した従来通りの編集小委員会で動く。
- ・編集調整会議および再編小委員会の委員として B2 部門からは青木委員が、B3 部門からは水谷委員が参加している。
- ・新しい論文集は 2011 年 1 月スタート、No.1-No.3 が通常号、No.4 が特集号 (海岸工学論文集)、ただし、論文の採択状況によっては、B2 の特集号が No.3 等になる可能性もある。
- ・特集号のページ番号は、I_1, I_2, … と振ることになった。
- ・土木学会 100 周年の行事の一環として、2013 年より新たに発刊する英文論文集の第 1 号を全ての部門で震災関連の特集とすることが報告された。
- ・以下に示す論文集編集における検討課題について報告された。
 - －フォーマットの変更
 - －組版 (高品位の体裁) 維持の是非
 - －土木学会論文集 B-2 (通常号) への投稿促進策
 - －国際セッションの活発化
- ・著者負担金と論文集価格について報告された。著者負担金は 35,000 円～40,000 円の範囲で検討継続、論文集価格は 5,000 円である。

5. 第 58 回海岸工学講演会の準備状況 (小笠原委員兼幹事)

準備状況及び見学会案等について資料 2 に基づき報告がなされた。ここで、シンポジウム開催が土曜日となっているのは、シンポジウムを通して社会発信を意識するのであれば、より多くの市民参加が見込まれる土曜日にシンポジウムを開催すべきとの判断によるものである。

- ・日程：平成 23 年 11 月 9 (水)～11 日 (金)
- ・会場：アイーナ (岩手県民情報交流センター) (JR 盛岡駅から徒歩 4 分)
- ・見学会：11 月 8 日 (火)、岩手県沿岸被災地 (宮古市田老～陸前高田市)
- ・シンポジウム：11 月 12 日 (土)、会場は盛岡駅近くのマリオス
- ・懇親会：ホテルメトロポリタン盛岡 NEW WING

6. 第 59 回海岸工学講演会の準備状況 (陸田委員兼幹事)

準備状況及び見学会案等について資料 2 に基づき報告がなされた。

- ・日程：平成 24 年 11 月 14 日 (水)～16 日 (金)
- ・会場：広島国際会議場
- ・見学会：検討中
- ・シンポジウム：11 月 13 日 (火)、広島国際会議場
- ・懇親会：11 月 15 日 (木)、ANA クラウンプラザ広島

7. 第 60 回海岸工学講演会の開催 (間瀬委員長、後藤幹事長)

第 60 回海岸工学講演会は九州地区で開催する方向で検討することとした。

8. Coastal Engineering Journal 報告（水谷 CEJ 編集小委員会小委員長）

資料 2 に基づき以下の報告がなされた。

- ・ Vol.52 No.1, 2 の説明と, 現在の査読状況
- ・ 2006 年～2010 年の国別投稿状況
- ・ CEJ Award の対象論文を下記の論文にする。

Anawat Suprasri, Fumihiko Imamura and Shunichi Koshimura : Effects of the Rupture Velocity of Fault Motion, Ocean Current and Initial Sea Level on the Transoceanic Propagation of Tsunami

- ・ CEJ 体制強化策として以下の施策を実施することとした。
 - － 編集小委員会と Editorial Board の役割の明確化：編集小委員会は国内委員で構成し全体的な企画・運営を担う。Editorial Board は Journal の質の向上を図るため、査読・編集に注力する。
 - － Associate Editor-in-Chief の新設：編集プロセスを迅速にするために編集小委員長が必要と判断した際に設置し、原則として編集副委員長がその任にあたる。Editor-in-Chief と同等の編集権限を有する。
 - － 副委員長補佐の設置：Associate Editor-in-Chief を設置する際には、編集副委員長が担当する電子投稿・査読システムの管理を補助するための副委員長補佐を設置することができることとする。

9. 研究小委員会の活動状況

広報小委員会（武若小委員長）、沿岸域研究連携推進小委員会（重松小委員長）、数値波動水槽小委員会（岡安小委員長）、地球温暖化適応策検討小委員会（横木小委員長）、津波被害推定ならびに軽減技術研究小委員会（藤間副小委員長）、津波避難 WG（岡安主査）、企画構想 WG（森主査）の活動状況が、資料 2 に基づき、または、口頭で報告された。

- ・ 広報小委員会：「2008 年日本海高波被害」のアーカイブを作成した。海岸工学委員会のホームページから参照できるようにする。
- ・ 沿岸域研究連携推進小委員会：京都大学防災研究所一般共同研究に、「将来気候下における沿岸域の安全性と快適性に関する研究」を応募し、また、平成 23 年度土木学会重点研究課題（研究助成金）に、「沿岸域の利用と環境に関わる情報プラットフォーム構築プロジェクト」を応募したが、両者とも不採択であった。
- ・ 数値波動水槽小委員会：報告書原稿収集中。ベンチマーク WG が近日中に ML にて参加者を募集する。
- ・ 地球温暖化適応策検討小委員会：報告書作成中
- ・ 津波被害推定ならびに軽減技術研究小委員会：地震と津波の複合災害についての研究を実施していたが、東日本大震災発生以降ほぼ同じメンバーが、東日本大震災特別委員会及びタスクフォースにおいて津波被害の調査を行っている。
- ・ 津波避難 WG：津波被害推定ならびに軽減技術研究小委員会に合流することを検討したが、独立して活動することとなった。東日本大震災の被災者の方々に対するインタビューは実施時期を考慮中である。
- ・ 企画構想 WG：報告書の内容について詳細な説明がなされた。①短期的取り組み、②中長期的取り組み、の 2 段階に分類して説明がなされ、以下の項目に言及した。

- ① 短期的取り組み項目：新たな Award の設置、若手をエンカレッジする施策、討議集のあり方、前日シンポジウム、学会、国際セッション

- ② 中長期的取り組み項目：海岸工学論文集・講演会の運営理念に基づいた改革の必要性，通常号や他の分冊との関わり，論文のページ数の緩和，異なる論文形態の導入（ポスターセッション，要旨論文など），投稿時期の変更，海岸工学講演会の開催地決定方法（開催費用の考慮）

10. 第 47 回 (2011 年) 水工学に関する夏期研修会 (陸田委員兼幹事)

標記研修会のプログラム案等がポスター(資料 4)に基づき示された。本研修会は，2011 年 8 月 29 日(月)，30 日(火)に，広島大学工学部で開催される。

11. 国際会議の開催案内

今年度，本委員会が関与する国際会議として，Coastal Structures 2011 が 2011 年 9 月 5 日～9 日に開催されることが案内された。

作成：松本